



関西支部報

<http://www.jackansai.com>

山岳会 今昔

城 隆嗣

山岳会今昔といっても昭和35年頃、いわゆる3人寄れば山岳会の時代と今を比べてみようと思う。こんなテーマで書くことに決めたのだが、よそ様の会のことなどは知らないし、何か一家言持っているというわけでもない。ただ、私が所属している大阪鋭峰会をモデルに書いてみることにする。

アルピニズムは山と人との関係であり、人と人との関係ではない。我が会では人と人との関係は強い。昔は年階級制、約束、責任、道具の貸借、そしてもっと厄介なのは気持ちの上でのこと。だが、これは山岳会が人の集まりである以上致し方がないし、遠征隊心理学でな学問が文化人類学の一部門として取り上げられているのも所詮必要悪と思って我慢するより外あるまい。

山岳会の機能は二つの面が考えられる。一つは養成機関、他は同好会的活動である。教育に主眼をおいたもの、そしてヤマ自体を目的とするものだ。

我が会は養成機関としての色彩が強く、五年制をとっており、この五年間に山のイロハから始めて相当な所までもっていこう。後半にはリーダーとして指導の任にも当たってもらう。非常に厳しい課程であった。当然その

躰寄せとして社会生活との摩擦が起き、生活が束縛されることもあった。またある程度、個人の自由をも犠牲にしなければならないこともあった。これらを維持するために会員の意思を統一しなければならない。これは他の山岳会との競争という手法で会員の技術を高めていった。ただ競争心だけではなく、体力を中心に強化も行う。技術は体で覚える式で、岩登りの道場である蓬莱峽に行っても、最初は船坂までのランニング、次に体操、それから岩に向かう。体に覚え込ませる方式も大切だが、それと共に技術の向上も重視して指導教程も作成した。特に積雪期の対策として歩行から、用具の名称、使い方など具体的に研究し、夜を徹してガリ版で作成した（このガリ版刷りは、後に府岳連の冬山教程になった）。

もう一つの同好会的活動は馬鹿にしていた風潮があった。とにかくがむしゃらな登山一辺倒。その結果発足して十年も経たないうちに府岳連の中でも有数の団体に育っていった。府岳連には古い体質も残っており、我々新しい団体が何を言っても取り上げてくれなかった。それに打ち勝つのは実力しか無かった。そういった意味では成果があった。

目次

山岳会 今昔	城 隆嗣	1
関西支部と私		
回想の記	新井 浩	2
関西支部で楽しんだスケッチ	小寺佳美	3
支部山行報告		
4000山グランプリ	村田かおり	4
海外トレッキング	久保和恵	4
関西支部県境縦走17	辻 和雄	5
ゆるやか山行「里山探訪」歴史と文化を	上田典子	6
訪ねる13		
わんぱく探検(四条畷 むろいけ園地)	茂木完治	6
4000山グランプリ	黒田記代	7
ゆるやか山行「里山探訪」歴史と文化を	田中アキユ	8
訪ねる14	村田かおり	8
関西支部県境縦走18		
「本山寺山森林づくりの会」作業報告	秦 康夫	9
森づくり協議会報告	阪下幸一	10
自然観察会報告	薦田佳一	11
私のとっておきの山行	宗實慶子	12
自己紹介		
私と山	黒岩敦子	12
自己紹介	森沢義信	13
山の音楽(3)日本編	水谷 透	13
村井葵さんの思い出	米本隆夫	14
会務報告		
第1回委員会議事録		15
第2回委員会議事録		16
藤木祭ご案内		15
新入会員		16
ルーム日録		17
受贈一覧		17
スケッチ同好会例会ご案内		17
支部山行計画	14年10月～12月	18
自然保護行事	14年10月～12月	19
著者と語る会ご案内		19
編集後記		20

支部山行報告

支部山行14-4 4000山グランプリ 銚子ヶ峰～願教寺山

村田かおり

5月11日(土)晴

石徹白道登山口より石徹白大杉を經過たけりの坂・雨やどりの岩屋と順調に進む。登山道にはタムシバにシヨウジョウバカマ。気温は高く、春とは思えない初夏の陽気で、神鳩ノ宮避難小屋までほとんど残雪は見られなかった。結局アイゼンなしで銚子ヶ峰山頂まで到着。天気が良いため銚子ヶ峰から連なる一ノ峰・二ノ峰・三ノ峰、また別山と雄大な山容が堪能出来る。360度のパノラマを心ゆくまで楽しめた。この日はP1784手前でテントを張り、星を眺めながらの就寝となる。

5月12日(日)晴

計画ではよも太郎から薙刀山・野伏ヶ岳まで縦走の予定だったが、残雪があまりに少ないため願教寺山までの行程に変更となる。昨夜通ったであろう熊の足跡を横目に見ながら雪の固い早朝の間に願教寺山をピストンし帰路につく。願教寺山からは昨年縦走した大長山・赤兎山を懐かしく眺められたが、今回行く予定だった野伏ヶ岳までの稜線は猛烈な藪であった。例年になく少ない残雪に薙刀山・野伏ヶ岳は次への持ち越しとなる。

【コースタイム】

11日 石徹白道登山口10:07—10:25石徹白大杉—11:54おたけりの坂—12:41神鳩ノ宮避難小屋—14:22銚子ヶ峰—15:02テントサイト

12日 下降点04:45—06:56願教寺山—10:20銚子ヶ峰—11:11神鳩ノ宮避難小屋—12:55石徹白道登山口



銚子ヶ峰より別山を望む 写真提供：重廣恒夫

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 村田かおり

計3名

支部山行14-5 海外トレッキング・インドネシア ロンボク島最高峰「リンジャニ山3726m」

久保和恵

バリ島デンパサールから飛び立ったプロペラ機の窓から、海岸線に裾を引く美しいコニーデ型の山が見えた。「リンジャニ？」否、「アグン山」と誰かが言う。飽きずに眺めていると遠く一連の山から一際キリリッと聳えている山が映し出された。「リンジャニ山だ！」早や海峡を渡りロンボク島なのだ。僅か40分の飛行。プラヤの空港に降り立ち、彼方のリンジャニ山の雄姿に「よろしく！」と声を掛けた。6日間の海外山行のアプローチである。

5月13日 関空発—インドネシア・バリ島 デンパサール着。クタ地区のホテル泊。

5月14日 朝食は温かいナシゴレンの箱弁当。隣の島ロンボク島プラヤヘフライト。着後は、専用車で各地観光ポイントを巡りながらリンジャニ山の懐にある村スバルン・ラワンの宿泊施設レンバ・リンジャニに。

5月15日 朝は快晴。リンジャニ山が赤く染まっている。ジープは悪路を突いて登山口(約1100m)へ。現地ガイド3名、ポーター数人と合流した。テントサイトのプラワンガンは2700m、標高差1600mを登る。畑地を抜け、放牧地の草原の中をひたすらトラバースするも高度が稼げない。今は乾季、照り付ける太陽から逃れようにも影がないのだ。幾本もの沢筋を渡るが水もない。「あー、いったい本当の登山口はどこ？」美しい山が少々憎らしく見えてくる。出発後3時間余、Pos2の昼食場所に着いて息を吹き返した。尾根に出会うのはPos3の先であった。この辺りから木々が目立ち始め木陰が嬉しい。急坂をじっくり登る。左にプリーツ状の山肌と明日迎る山頂への火口縁の道がくっきりと見える。登り詰めると視界が開け、眼下に火口湖セガラ・アナ湖が見えた。キャンプサイト着。

5月16日 午前2時半に出発。狭い登山道には夥しいテントの列。行く手にはライトの列が続く。富士山並みの混雑だ。足元だけの世界から徐々に視界が広がり、6時15分頃水平線の雲の上から朝日が昇った。少しすると

対岸にピラミダルなリンジャニの影が写し出され、しばし感慨にひたる。我に返ると足元は地獄である。傾斜が増すほどに砂礫の道は不安定、思うように登れないから厄介だ。雨や強風でなくて良かった。



頂上への登り 写真提供：重廣恒夫

やっとの思いで登頂。ここより高い山はない。遙か西にアグン山、東方、海を挟んだ島影はスンバワ島だろうか。火口にはコバルトブルーの水を湛えた湖、寄り添う小さな新火山。鋭く切り立つ火口壁など素晴らしい景観だ。頂上はほぼ貸切り状態。同行の現地ガイドが神事を始めたのには意表を突かれた。供物を捧げ、白装束で儀式が執り行われた。皆も首を垂れる。霊峰リンジャニ山、神の領域に入った許しと、感謝。そして登山者の安全祈願のお祈りだろうと想像する。テント場へ標高差1000mを一気に戻る。滑ること甚だしかったが2時間で下った。朝食後往路を戻るが、下方で道を分け暗い樹林帯を抜けるとスンバルン・ラワンの村中に出た。本日の行動時間14時間30分。よくも歩けたものだ。冷たいコーラが喉を鳴らす。ガイドとポーターに感謝と別れを告げ、ガスに身を隠すリンジャニ山に「ありがとう！」の言葉を残し、専用車でスングギへ。

5月17日 午前中リゾートホテルで骨休め。午後バリ島へ。夜は伝統舞踊を觀賞しながら夕食をとり、深夜関空へ帰国の途についた。

【コースタイム】

15日 登山口08:50—12:00 Pos 2 13:15—14:10 Pos 3 14:25—17:30テントサイト

16日 テントサイト02:30—07:30山頂08:00—10:00テントサイト10:53—14:15Pos 2 14:50—17:00スンバルン・ラワン

【参加者】

重廣恒夫 茂木完治 新本政子 水谷透 久保和恵
(会友)黒岩敦子 (一般)3名 ツアーリーダー1名

支部山行14-6 関西支部県境縦走17 いざみ峠～円城寺峠～大成峠

辻 和雄

5月24日(土)晴

天気が良く、暑い中での山行となった。今回のコースは標高500～600mの低山である。

いざみ峠から駒返峠を過ぎた先の法沢山頂(643.4m)は遮るものがなく暑いが周囲が一望できる。下草はほとんどなく歩きやすい。概ね予定コースタイム通りで円城寺峠手前の少し平坦な場所をテントサイトとする。支部長が取水のため谷に下る。残ったメンバーで手早くテントを設営する。外で夕食と酒を飲み、談笑後就寝となる。私はシュラフカバーのみであったが寒くはなく快適であった。

5月25日(日)晴

円城寺峠には古い石仏があった。日があがり高竜寺ヶ岳(696.7m)に到着。山頂には一面の芝生と東屋があり、眺望も良く快適な場所である。尉ヶ畑峠までの下りは良く整備された登山道。P523までは順調であったが、その後ヤブが出だしスピードが遅くなったため、予定よりも手前的大成峠から下山となった。

今回の法沢山、高竜寺ヶ岳は、共に兵庫県山岳連盟・各市町・神戸新聞社等による「ふるさと兵庫100山」に選ばれている。

【コースタイム】

24日 いざみ峠11:41—13:44駒返峠—15:09法沢山—18:14テントサイト

25日 テントサイト04:18—04:27円城寺峠—07:26高竜寺ヶ岳—08:29尉ヶ畑峠—09:33P523—13:09大成峠



高竜寺ヶ岳山頂にて 写真提供：重廣恒夫

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 山内幸子 久保和恵 野村珠生
松仲史朗 村田かおり 辻和雄 計8名

支部山行14-7 ゆるやか山行【里山探訪】

歴史と文化を訪ねる13

湖北 田上山～呉枯の峰

上田典子

5月29日(木)

「湖北の山」と聞くと、つい嬉しくなって、参加させていただいた。「呉枯の峰」は、木之本の町をとりまくように張り出して、「菅山寺」という古刹への里人の厚い信仰と歴史の旧さを感じる山であった。

意富布良神社の横手から田上山へ登り始める。ゆるやかに自然林のなかをジグザグに登っていくと、初夏の日差しで汗ばむほど。途中の上宮跡で一息入れて、田上山城跡につく。賤ヶ岳の合戦のときの秀吉の本陣が置かれたという。小さなアップダウンのあと、自然林と植林の境を分ける道を登って行く途中で、「おやつにしよう」のお声がメンバーからかかった。おいしいお菓子を頂いて、元気を取り戻して、田上山公園分岐に着いた。方向を変えて、南進すると、まもなく「呉枯の峰」一等三角点 山頂531.9mに到着した。大きな「ほおの木」がはるか上方に白い花をつけているのが季節を感じた。ランチタイムは、楽しい話題が輪になってひろがる……。

午後は、山頂から田上山公園分岐まで戻り、菅山寺分岐へと進む。分岐には、これから向かう菅山寺の歴史が詳しく書かれた標識板があった。少し急だが、整備された広い道を下る。近江天満宮を通り、朱雀池のほとりのオカツナミの行儀の良い咲きぶりに感心し、菅山寺に着く。こんな豪雪地帯の山奥に、よくぞこのような立派



荒廃している菅山寺 写真提供：小林三喜男

な建造物が、八世紀の大昔に開基されたものだと、またまた感心する。が、かなり荒廃した様子も伺える。妙法経堂の石段を上がると、ヒメシヤガが一輪待っていてくれた。本坊の入り口には2本のケヤキの大木が門を挟んで立っている。右手のほうの幹はかなり痛々しい。なにしろ菅原道真お手植えというから、数百年の樹齢であろうか。そっと撫でて、「気」をもらった。見学を終えて、分岐まで登り返し、坂口集落への良く踏まれた下山路をゆっくり歩く。ときおり毛虫がぶら下がっていて、よけながら。道端にはお地蔵さんがいくつも置かれ、中には首の取れたのも見られた。里人の信仰の深さを感じた。北陸自動車道のトンネルで、クールダウン後、坂口バス停に向かう。坂口からの上り口には立派な鳥居があり、石柱がある。バス停に向かう北国街道で、名物「菊水飴」のお店に寄り、試食する。あまりのおいしさに買った。帰宅して、数日は巻いた水あめをなめながら、ニカニカと思い出と味を堪能したものであった。

リーダーのお人柄そのもののような、和やかでアットホームな例会に参加させてくださり、ありがとうございました。

【コースタイム】

J R木ノ本駅09:34—09:44意富布良神社10:04—10:28上宮跡10:36—10:47田上山城跡10:54—11:53田上山公園分岐11:57—12:02呉枯ノ峰山頂(ランチ) 12:51—田上山公園分岐12:56—13:16菅山寺分岐13:19—13:33近江天満宮13:38—13:43菅山寺13:48—13:53ケヤキの大木14:09—14:21菅山寺分岐14:29—14:59坂口登山口15:00—15:21坂口バス停15:42—15:56JR木ノ本駅

【参加者】

久保和恵 山内幸子 新本政子 岩崎しのぶ 魚津清和
浦上芳啓 金井健二 戸島泰三郎 平井一正 松波幹夫
水谷透 宗實慶子 上田典子 (会友)岐部明弘 小林三喜男
中野峯子 中川富夫 横山規江 (会員外)秋月修次
立野里織 田中アキエ 計21名

支部山行14-8 わんぱく探検

四条畷 むろいけ園地(大阪府民の森)

茂木完治

6月1日(日)晴

5月から異常に暑い日が続き、この日も軽く30度を越えることが予想されていた。実は、前の日に家内と下見に来たのだが、ハイキングだけで暑さに負けてしまった。それでこの日は不安でいっぱいだった。小さい子もいる



森の宝島にて 写真提供：茂木完治

ので、熱中症になったりしないだろうか。

水辺園駐車場に集合した10時ころにはすでにムアーとした熱気が感じられた。ともかく無理はしないということで腹は決まっていた。それで、室池池畔を巡るハイキングはやめて直接、飛行機飛ばし会場の森の劇場へ行くことにした。テニスコートの脇を通過して駐車場から吊橋を渡れば森の宝島という子供向けの公園に入れる。大きな白い滑り台が目に入る。子供達は飛んで行って滑り台で遊ぶ。コンクリートの滑り台に手を触れるとかなり熱い。それをものともせずに子供達は繰り返し滑る。元気なものである。ターザンロープ、わんぱく坂を上がって森の劇場という広場に出る。木陰にシートを敷いて早くもお昼の準備をする。紙飛行機も飛ばし始めた。

今年の紙飛行機はストローを軸にして、葉書で羽根を作り、輪ゴムで飛ばす方式を試してみた。手で飛ばすよりも輪ゴムの方がよく飛ぶ。そのぶんしばしば木に引っ掛かってしまった。木の枝で払い落したり、靴を投げあげて落としたりと、それもけっこう楽しい遊びになった。遊ぶことしばし、予定より2時間早かったが午後1時で解散した。ともかくとても暑い日でした。

【参加者】

清瀬祐司 渡辺裕 渡辺絵里子 渡辺祐己(11歳) 渡辺美彩稀(9歳) 渡辺遥己(7歳) 大田千穂子 大田ゆうすけ(11歳) 大田あつし(9歳) 村上健吾 村上もとはる(9歳) 村上ちさと 野口恒雄 野口美枝子 野口蒼生(7歳) 野口樹生(3歳) 秋枝秀實 秋枝大吾 秋枝千尋(5歳) 山内幸子 久保和恵 茂木完治

6月14日(土)曇後晴

金沢駅からタクシーで登山口に向かう。湯涌温泉を過ぎ、10号線のゲートが先日来の大雨のため閉まっていた。ゲートから順尾山登山口まで歩いて縦走を開始。上順尾山、順尾山から大倉山に到着。大倉山山頂から少し西側に展望台があり南方面が開けていて、月ヶ原山・多子津山・大門山・見越山・奈良岳・高三郎山などの山々が展望でき、絶景であった。順尾山登山口まで2時間20分ほど予定外に時間がかかったので、赤堂山から月ヶ原山・多子津山に行く当初の予定を変更し、高尾山から吉次山方面に行くことになった。順尾山分岐に戻り、奥高尾山からブナ平を過ぎた辺りにテントを張った。

6月15日(日)晴

日尾池から吉次山を往復してテントサイトに戻り、奥高尾山に引き返し、前高尾山を経て湯涌温泉に下山した。日尾池はかなり大きな池で、池周囲の樹々にはかなり上のほうまでモリアオガエルの卵がたわわについて、遠目には白い花が咲いた様に見えた。

6月にすればさわやかな山歩きとなり、ブナ林の中を歩いた2日間だった。

【コースタイム】

14日 金沢06:40(タクシー) 登山口手前ゲート07:26—順尾山登山口09:49—10:38上順尾山—11:14順尾山—11:44奥高尾山分岐—12:59大倉山—14:17順尾山分岐—16:47奥高尾山—ブナ平—17:19テントサイト

15日 テントサイト04:31—05:37吉次山—07:55奥高尾山—08:46前高尾山—10:12高尾山登山口

【参加者】

重廣恒夫 山内幸子 黒田記代

計3名



大倉山展望台から望む山々 写真提供：重廣恒夫

支部山行14-9 4000山グランプリ
順尾山～大倉山・高尾山・吉次山
 黒田記代

支部山行14-10 ゆるやか山行【里山探訪】

歴史と文化を訪ねる14

能勢 三草山

田中アキエ

6月19日(木)晴

梅雨の中、今日は天候に恵まれた山行である。森上バス停から数分の岐尼(きね)神社で準備運動をしてからスタートする。ゆっくりとあぜ道歩き。途中で慈眼寺のお寺が有り立ち寄る。住職さんの法話の中で伺ったのですが、こちらに安置されている観音様は「オオカミ」という昔話に出てくるそうです。お寺を後に、裏手の大阪環状自然歩道の道標に沿ってコンクリート道を歩きゼフィルスの森へ。ミドリシジミ類の蝶々が多いと思ったのですが、少なかったですね。蝶々を後にして、登山道に入り階段を登って山頂に到着。



三草山の棚田 写真提供：小林三喜男

私は5、6年前に三草山に来たのですが、登山道も整備されて、山頂は当時広く感じたのですが、狭かったです。

才の神峠の道、三草山の古名は「美奴売山(みぬめやま)」と言い、神宮皇后の三韓遠征にまつわる船材の供与など、戦国時代の能勢塩川軍の「三草山清山寺合戦」が繰り広げられた所らしい。

長谷の集落を巻くように下って行くと、やがて棚田を臨む位置、日本の棚田百選の一つだそうです。約四百年前に築かれた「ガマ」と呼ばれる農業用水、冷たく、水がきれいです。所々にアザミの花、皇帝ダリア、ヒマワリの花が咲いて、また山一面新緑、目の保養になりました。

【コースタイム】

森上バス停09:19—09:27岐尼神社09:43—10:05慈眼寺
10:45—11:31ゼフィルスの森—12:03三草山(昼食)12:55—

13:11才の神峠—長谷の棚田—14:09慈眼寺—14:11源満政の廟—14:46森上バス停

【参加者】

久保和恵 山内幸子 魚津清和 浦上芳啓 金井健二
戸島泰三郎 橋本圭之輔 松波幹夫 宗實慶子

(会友)岐部明弘 黒岩敦子 小林三喜男 横山規江

(会員外)秋月修次 田中アキエ

計15名

支部山行14-11 関西支部県境縦走18**大成峠～滝峠**

村田かおり

6月28日(土)曇のち雨

但東町中藤より林道に入り、終点から約30分で大成峠に復帰。曇空に助けられ涼しい風が時折吹き、心地いいコンディションだ。藪もなく順調に進むが、岩屋峠に下るところでトンネルの屋根に阻まれ下り場所を幾度となく確認。トンネルを迂回して県境に再度復帰する。峠からは急斜面の笹を掴みながら一気に稜線に上がり、薄い笹藪を進む。程なく藪はなくなり歩きやすい登山道へと変わり三角点岩屋に到着した。三角点を過ぎた辺りから雨が降り始め、予定通り奥藤分岐の峠を少し下ったところでテントを設営。サンコウチョウの愛らしい声を聞きながら就寝となる。

6月29日(日)曇

朝方には雨も上がりテントサイトを出発。P424を過ぎた辺りから鹿除けのネットが確認出来る。ネットは三角点・加悦奥の辺りまでの広範囲に渡り繋がっており、子鹿がネットに引っ掛かり絶命しているのに遭遇。加悦奥峠を経て徐々に気温も上がり蒸し暑い熱気となる。P464からは腰までの笹藪を進み、順調に滝峠へと出て今回の踏査は終了した。



四等三角点・加悦奥峠にて 写真提供：重廣恒夫

【コースタイム】

28日 大成林道終点11:28—12:05大成峠—12:42P546—
13:42磯砂山分岐—14:11境界分岐—15:11岩屋峠—16:49
P395.6—17:27奥藤分岐—17:44テントサイト
29日 テントサイト04:28—04:47奥藤分岐—06:14P306.1
—06:43加悦奥峠—08:08P342—09:39P464—10:45滝峠—
11:20民家

【参加者】

重廣恒夫 黒田記代 山内幸子 久保和恵 野村珠生
松仲史朗 村田かおり 計7名

◆参加者名の追加

支部山行14-3の参加者欄(支部報No.155 p.14掲載)に「新
本政子」追加 合計人数も両日「1名」プラス

「本山寺山森林づくりの会」作業報告

秦 康夫

2014年4月13日(日)9:30~15:30

民間団体の森づくり活動にも国が支援する「森林・山村多面的機能発揮対策交付金」という長い名前の交付金を受けることが決まった。提出した計画書通りの作業実績を遂行するには作業ペースをあげる必要があり、4月からは作業日を増やして月2回とした。

今回から44林班内の「干害防備保安林」の整備作業に入り、0.2haの林床整備と枯損木の除伐作業を行った。作業地は30~60度の傾斜地のため、伐倒、伐倒木の玉切り、枝切り、事後の林床整備とも作業はかなり困難を伴うものだった。立派なモミの大木が多い急斜面に、半分腐りかけた直径70cm程のモミの木があり、この枯木の伐倒に一番苦労した。4人がかりで、1時間ほどかかってやっと倒すことができた。樹齢100年を超える大木で伐倒するだけで精一杯、後処理までは手がまわらなかった。

【参加者】

金井良碩 斧田一陽 黒山泰弘 薦田佳一 宮本廣 福井誠 武田寿夫 倉谷邦雄 中村賢三 須本淳史 阪下幸一 石原順子 計12名

2014年4月24日(木)9:30~15:00

前回に引き続き、保安林内の枯損木の除伐と林床整備を行った。大きな枯損木がなかったので作業がはかどり、天狗杉までの東海自然歩道沿いの西斜面の整備作業は、ほぼ終了した。大きなモミの木が2本並んで立っていたのを計ってみると、一本は胸高直径69cm・幹周り216cm、他の一本は胸高直径102cm・幹周り320cmだった。直径102cmは、この辺りでは一番太いのではないかと思う。

【参加者】

斧田一陽 宮本廣 薦田佳一 武田寿夫 杉本佳英 秦康夫 計6名

2014年5月11日(日)9:30~15:00

3名づつの3班体制9名で保安林内の枯損木の伐採と林床整備を行い、計30数本を伐採した。枯木とはいえ大きいのは直径40cm程あり、伐採と後処理に手間と時間がかかったが、これで天狗杉の上部、本山寺山頂上周辺、約0.3haの整備はほぼ終わった。

2名は作業地周辺の植生調査を行った。モミ、カエデ等の実生は随所にみられるが、全般的に広葉樹系が少なく、またほとんどが1年生で2~3年生がないのは鹿害のせいではないかとのこと。

【参加者】

宮本廣 倉谷邦雄 中村賢三 薦田佳一 秦康夫 武田寿夫 福井誠 阪下幸一 黒山泰弘 中村康則 斧田一陽 計11名

2014年5月22日(木)9:30~15:40

前回までに作業を終えた本山寺山の山頂近辺から稜線に沿って西方面と、斜面を下って東方面保安林内の林床整備を行った。保安林内なので、針葉樹、広葉樹を問わず生木の伐採はできない。枯損木の伐採、枯れ枝払い、散在する風倒木の整理等を行い、約0.8ha範囲の林床整備ができた。斜面が比較的ゆるやかなので作業がしやすく、大小あわせ30数本の枯損木を片付け、林内は大分すっきりした。

【参加者】

宮本廣 薦田佳一 武田寿夫 阪下幸一 杉本佳英 秦康夫 斧田一陽 計7名

2014年6月8日(日)9:30~15:40

干害防備保安林は約5haあり、本年8~9月に林床整備作業を終える予定だが、これまで4回の作業で整備できたのは2ha程度。今日は3班に分かれて作業したが、作業参加人数も多く、大口径の木が少なかったこともあって作業が進み、計30本ほどの枯損木の伐採と、倒木の整理を行い、約0.9haの林床整備ができた。腐敗し

た倒木のヒノキの幹から、無数の羽化したばかりの羽虫が、続々と舞い上がる様にはびっくりした。

【参加者】

金井良碩 宮本廣 薦田佳一 武田寿夫 斧田一陽 福井誠 中村賢三 黒山泰弘 石原順子 秦康夫 猪川誠 倉谷邦雄 須本淳史 計13名

2014年6月26日(木)9:30~15:40

4名づつ2班に分かれて作業。枯損木10数本の伐採と伐採後の整備、倒木・落枝等の整理を行った。保安林北

部は水源地の上部にあたるが、近くの東海自然歩道・天狗杉周辺がハイカーの休憩場所となるため、チリ紙等のゴミが多い。穴を掘って一部の紙ゴミは埋め、大部分のゴミは用意したポリ袋に入れて持ち帰った。帰路、東海自然歩道を横切って掘られている水切りの溝が、土や落ち葉で埋まっている箇所があり、土や落ち葉を取り除いて水切り溝の整備をした。

【参加者】

宮本廣 薦田佳一 武田寿夫 斧田一陽 倉谷邦雄 秦康夫 杉本佳英 石原順子 計8名

第8回日本山岳会森づくり連絡協議会報告

2014年3月21日(金)~23日(日)

阪下幸一

今年は広島支部が担当し、灘、伏見、と並ぶ酒造りでは有名な東広島市の西条で行われた。関西支部からは5人が参加した。

初日は西条駅前の賀茂泉会館四階の「泉ホール」で、新書大賞2014の受賞で話題となっている「里山資本主義」をテーマに関係者の一員でもあるNHK広島放送局のチーフ・プロデューサー井上恭介氏の講演が行われた。身近な資源「山の木」等を活用して地域を活性化させる試みで、私たちの意識と生活様式の変化が地域再生につながるという話で感銘した。

続いて各支部の自然保護活動の報告があった。明日、見学を予定している竜王山の市民の森づくりの取り組みについて広島支部自然保護委員長の前垣寿男氏(西条酒造協会理事長)が説明された。西条駅近くには現在も8軒の蔵元が連なり、赤い煙突と白壁の続く独特の街並を作っていて「西条酒蔵通り」と呼ばれている。豊かな地下水が流れ西条の銘酒を支えている。この地下水の水源地は西条駅北側、約2kmに位置する標高552mの竜王山で、



竜王山いこいの森(作業小屋)の前で 写真提供：阪下幸一

降った雨は約50年かけてゆっくりと流れ、南側の酒造地域へ良質の水を送り届ける。さらに南に下ると鉄分の多い水となっているので、酒造地域は奇跡の名水が湧き出るところといえる。20年ほど前に杜氏から「地下水の水位が年々下がっている、将来は水が枯れるのでは」と聞いた。水源の竜王山、麓は宅地造成で開発が進み、水田の減少など環境が変わっていた。2001年に検討会から出発し、「山づくり・水づくり・美しい故郷作り」をミッションに産・官・学・市民からなる「西条・山と水の環境機構」を発足させた。西条酒造組合に対して、酒1升売れば1円を拠出することの賛同を得、基金を確保し、継続的な事業を可能とした。除伐、間伐した木材でウッドチップを作り、堆肥に混ぜて田んぼに鋤き込んで、酒米の生産に活用する。酒米が酒となり、売り上げの一部が基金となって活動の源となる。12年間で59回実施。各蔵元には水飲み場を設け、酒蔵通りの景観に役立てている。また、山の手入れが植生や地下水の水質、水量にどのように影響するのかを研究機関に委託し、その成果を活動に反映させている。その後、前垣さんの蔵元を見学し、蔵人さんの寮に泊めていただく。

翌日は、竜王山憩いの森を視察。作業場で廃材をチップにして、山に撒き戻すのを見学した。竜王山頂を往復し、午後二時頃解散。関西支部3人は広島支部の方の案内で広島市内を観光し、JAC広島支部のルームに寄る。関西支部ルームより広く、談話室等も親しみやすい雰囲気だった。再び西条に戻り、この日も蔵元の寮に宿泊する。

3日目は、船で宮島に渡り、厳島神社を参拝。弥山に登山。15時頃解散。お世話に成った方々に感謝して帰路に着く。

【参加者】

金井良碩 斧田一陽 阪下幸一 (本山寺森作りの会) 須本淳史 福井誠 計5名

春の上高地自然観察会

薦田佳一

6月9日(月)

関西から2台の車に分乗し新緑の上高地に向かった。平湯ターミナルでタクシーに乗り換え上高地に向かった。上高地バスターミナルに着くなり猛烈なスコールと雷の洗礼を受けながら上高地山岳研究所に到着。初日はお刺身や色とりどりの新鮮なサラダで祝杯をあげる。

6月10日(火)

早朝、霧が立ち込め新緑の上高地の自然は鮮やかな広葉樹が広がる樹林帯と野鳥のさえずりが気持ち良い。

今日の自然観察は、早朝から晴れ間が現れ快適な観察日和となった。河童橋を渡り小梨平、明神館と歩き白沢出合で、徳本峠方面の白沢樹林帯を進む。カラマツ、カツラ、イチイ、シラビソ等の樹木、立ち枯れした樹木、苔むした樹木が林立し、木漏れ日を受けた新緑が特に美しい。また高山植物は登山道両側に沿ってあちこちに花が咲いていた。下流側の白沢沿いはニリンソウ、エンレイソウ、コウモリソウ、などが多かった、上流の黒谷(標高1565m)に入るとサンカヨウ、エンレイソウの花が目を楽しませてくれた。

標高1650mあたりになると雪渓が現れ、少し登った1670m辺りで再び夏道に戻り徳本峠まで続いていた。

峠では安曇野側から霧が流れ込み視界が数m程で、残念ながら穂高側は何も見えない。徳本峠小屋は、今もいにしへの懐かしい面影を残していた。昼食後、同じ道で下山。少し下った辺り、霞沢岳方面の斜面で岩雪崩が発生、不気味な大きな音が「ガッガーン」と何度も鳴り響いた。対面の垂直の岩壁に、はっきりと縦に100~150m程の岩雪崩のあとが出来ていた。登山道からは対面の斜面であり、影響を受けることなく下ることが出来た。高山植物、樹木の観察を楽しみながら下山した。

6月11日(水)小雨

今日は岳沢小屋までの自然観察。朝から小雨で、青々とした新緑の森の中を出発。穂高岳・岳沢登山口からは岳沢に進路を取った。

緑豊かな新緑の森を歩く、標高1600m辺りから傾斜が少しずつ付いてきた。前明神沢出合辺りで20~30年前に生じたと思われる雪崩で根こそぎ流されたカラマツ、イチイ、シラビソ等の大木が重なり合って横たわっていた、改めて自然の驚異に感動した。

1850mの地点まで登ってくると、岳沢の「ガレバ」に着いた。展望が開け上部には間ノ岳、天狗岩、ジャンダ



徳本峠小屋 スケッチ：薦田佳一

ルム等、下方には上高地の森と赤い屋根が綺麗に融和していた。穂高の峰々を背に粋なポーズで写真に納まる阪下さんに大喝采が沸いた。

さらに登ってゆくと美しいダケカンバが続く。2140m辺りから雪渓が現れ、フィクスロープが張られており、安全に登ることが出来た。正午頃、岳沢小屋に到着。岳沢小屋の上方に奥穂高岳—前穂高岳の吊尾根辺りが良く見えた。扇沢、前穂高沢には残雪がぎっしり残っていた。

小一時間ほど滞在して下山の途に付いた。途中オオカメノキ、タラノキの群生が目についた。登山口を出て湿原を散策し、山研に戻った。

6月12日(木)雨

早朝、霧の中、大正池辺りの自然観察に出かけた。河童橋から右岸を歩き、ウエストーン碑、田代池、大正池と霧雨の中を散策した。焼岳は霧に隠れうっすらと確認できた。帰りは帝国ホテルに立ち寄り、山研に戻って朝食を頂く。部屋の掃除を終えて山研を後にした。平湯で駐車していた車に乗り換え、途中、古都古川に立ち寄る。大阪には明るいうちに到着。楽しい4日間の春の上高地自然観察を楽しむことが出来ました。

【参加者】

阪下幸一 斧田一陽 秦康夫 中谷絹子 薦田佳一
(会員外)2名 (その他別行動会員外6名) 計13名



私にとっておきの山行 とっておきの山—シャモニの休日

宗實慶子

1970年8月の初旬、フランス在住の妹と2人でシャモニに行き、モーリス・エルゾグさんの館を訪れご挨拶申しました。

モン・ブラン登山を終えてシャモニにもどると、早大の近藤等先生にお会いできました。そこで川森左智子さんの滞在を知り早速ホテルにお尋ねしました。再会を喜び、「どこぞに登りましょう」と近藤先生にお許しをいただいたツール・ロンド行きが決まりました。

若者達と5人で、エギーユ・デュ・ミディ経由ヴァレ・ブランシュのローブウェイに乗りトリノの小屋にはいりました。夕食は五目ご飯やポタージュスープを作りましたが、インスタントのご飯は味がよく便利になりました。

早朝、ジュアン氷河からアンザイレンしてツール針峰、アントレーヴ針峰の下部を川森さんは重いカメラ式を担がれて黙々と歩かれました。アントレーヴのコルに上がるとブレンヴァの大氷壁、その先につい先日立ったモン・ブランが輝いていました。ジャンダルムをフランス側イタリヤ側とまいてコルに出て、岩と雪の斜面を耐えると頂上。

川森さんはレンズを交換してシャッターをきりまし

た。「貴女方とモン・ブランに登りたかった」とつぶやかれました。下降はフレッシュ・フィールドのコルから懸垂で直接氷河に下り時間を稼ぎました。途中川森さんの片方のアイゼンがはずれて、氷河に消えました。落石の度に「ナチュラル」「ナチュラル」とコールされ、下りきった周辺にはアイゼンはありませんでした。クールメイユールに出て川森さんのお見繕いで食事をしました。ヒッチハイクでモン・ブラントンネルを抜けシャモニに帰りました。

あれは昭和45年、大阪万国博覧会が開催され、私は子育て中でしたが、63歳の川森さんに圧倒された、それは素晴らしいシャモニの休日でした。

(注) 川森さん(日本山岳会名誉会員)は1957年の夏、マッターホルンは早大山岳部OBの今井友之助氏(日本山岳会名誉会員)とガイドレスで、モン・ブランにはシャモニのガイドと登られました。両峰の登頂は日本女性では最初です。

※『川森左智子追悼集』(平成元年8月20日刊)への寄稿文に加筆しました。

(2014/5/1受)

自己紹介

私と山

黒岩敦子(会友)

65歳の春、偶然目にした山旅学校参加者募集に応募し、机上演説を受けたのが山との出会いです。登山経験もなく教えられるままに一生懸命みんなについて歩き、苦しい中にも楽しさを感じ、登頂できた時の感動、達成感は初めて味わうものでした。月1回の登山だけでは物足りなくなって他のツアーに積極的に参加し、好日山荘のオリエンテーションで重廣支部長との出会いがありました。初めてご一緒した箕面では今までと違う早い歩きに必死で後を追って歩いたことを懐かしく思い出します。その後も支部長との出会いのご縁を大切に機会あるごとにご一緒の山行に参加し続けました。4年目には声を掛けていただき、近畿分水嶺踏査に参加、関西支部の方達と出会いました。支部からの山行案内が届くと不安を感じながらも行きたい気持ちを優先していろいろな支部山

行に参加、会友となって現在に至っています。

山との出会いから10年目を迎えますが一番印象に残っている山はゴークョ峰です。登山をはじめた翌秋、誘いを受けてアンナプルナ、ダウラギリへの初めての海外トレッキング。その翌年にはエベレスト街道を歩き、その翌年にはもっと近くでエベレストが見たい思いが募ってゴークョ峰登頂を実現。登りたいという夢は山と出会って4年目に叶えられた幸運でした。

最近では昨年1月県境縦走に参加して瀬戸内海で海水を汲み、今年3月の県境縦走で日本海に流し、新しく日本海の海水を汲む場に立会うことができ感動しました。

これからもゆるやか山行でご一緒しているお元気な諸先輩を目標に恵まれた健康と環境に感謝し、好奇心を失わず楽しい山歩きを続けられたらと願う日々です。

自己紹介

森沢義信(会員番号：13788)

サラリーマン時代は、30年にわたって輸出入の仕事に専念してきた。出張や取引先との商談のため土日・祭日は休める日が少なく、登山はゴルフ同様時間的に贅沢な遊びであった。ところが50歳を過ぎて椎間板ヘルニアの手術をうけてからは、週末が気ままに過ごせる時間になった。それでリハビリを兼ねて登山を再開した。毎週1回、一人で磁石と2.5万の地形図を持って近畿の山に出かけた。奈良県内の山を一つずつおぼして行くようになると、大峯山脈や奥駈道が最大の関心事となり、山伏のまねごとまでするようになった。山に登らない日も週3・4日は自転車で20kmを走り脚力の強化に努めた。

今から4年前に、慢性化していた脛骨神経障害の右足を手術した。放っておくと車椅子か寝たきりになるといわれたからである。予後は思わしくなく、車の運転も不

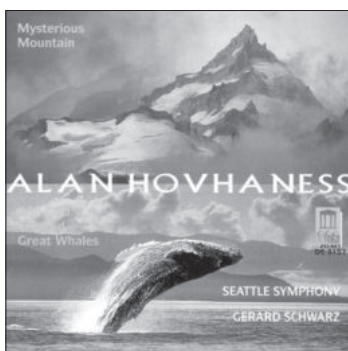
自由になった。山歩きの回数が極端に減少し、最近は「ゆるやか山行」やボランティア団体「新宮山彦ぐるーぷ」の活動に参加している。作業の内容は山小屋の維持管理や南奥駈道の修復などである。

山での活動以外に励んでいることがひとつある。我が家の庭でハワイのサクラといわれるジャカラングの花を開花させることである。ジャカラングは亜熱帯南米原産で、芳香のある青紫の花を付け、南アフリカ・プレトリアでは全世界から観光客を集めている。宮崎県の日南海岸でも数百本が植栽されているが、寒さに弱いため花を見ない年もあるらしい。我が家では2009年に鉢植えのジャカラングが開花した。種から育てて19年目の快挙であった。奈良県で初めてであった(と思っている)。大木にするため鉢植えから露地植えにしたが防寒に失敗し、以来花を見ていない。ちなみに大阪市内では6月中旬に数カ所でジャカラングの花を見ることができる。

山の音楽(3)日本編

水谷 透

日本の山ではさすがに富士山をテーマにした曲が多い。アラン・ホヴァネスがカンタータ「富士」を書いている。この曲に使われている詩は、山部赤人の「田子の浦ゆうち出でてみれば 真白にそ 富士の高嶺に 雪は降りける」である。さらに彼の出世作である交響曲第2番「神秘の山」は富士山にインスピレーションを得て作曲された。ちなみに夫人は日本人ソプラノ歌手である。



伊藤康英は行進曲「三岳山」も書いている。この曲は静岡県立引佐高校創立100周年にあたり同校の校歌を用いて作曲されたもので、三岳山(467m)は同校の北に位置する。

関西では山の作曲家と称する近藤浩平(1965-)が「甲山に登る」を書いている。彼には「六甲全山縦走の歌」があるが、未公開で発表の予定もないようである。また足立正(1967-)に交響詩「愛宕山」があるが、これは上方落語の「愛宕山」を題材にした曲である。

そのほかの山を南から順にみていくと、團伊玖磨(1924-2001)に混声合唱組曲「大阿蘇」、黛敏郎(1929-1997)に交響詩「立山」がある。この曲は立山黒部アルペンルート の全線開通を記念して制作された映画「立山」のために書かれたものである。

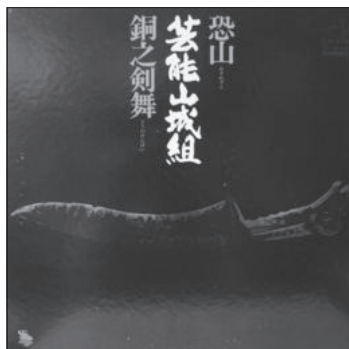


東北に入ると、廣瀬量平(1930-2008)の混声合唱組曲「吾妻山麓」や、佐藤真(1938-)の混声合唱組曲「蔵王」があり、林光(1931-2012)には宮沢賢治の詩に作曲したソング「岩手山」がある。また高橋竹山(1910-1998)による即興曲「岩木」もある。



あとは日本人作曲家によるもので、三善晃の交響詩「連禱富士」や交響詩曲「富士へ」のほか、三枝成彰(1942-)のピアノ協奏曲「見よ、西風からの富士」、多田武彦(1930-)の男声合唱組曲

「富士山」、小林秀雄(1902-1983)の児童合唱組曲「富士山」、伊藤康英(1960-)の交響的絵画「富士」やマーチ「ふじの山」などがある。



私の知る限り日本最北の山は、渡辺宙明(1925-)が書いた民族音楽的合唱曲「恐山」である。耳をつんざく女性の悲鳴から始まるこの曲は、夜一人で聴くとトイレに行けなくなる曲である。

♪曲を聴くために♪

CD等の録音媒体で発売されていない曲も、パソコンをお持ちなら動画サイトで多くの曲を聴くことができます。

作曲家名と曲名を組み合わせると、該当する動画サイトが幾つか出てきます。外国人作曲家の場合も多くはカタカナで入力すれば出てきます。カタカナで出ない場合は英語や原語(作曲家名、曲名とも)で検索すると出てきます。

ただ必ずしもプロの演奏家によるものではなく、特に吹奏楽や合唱曲では学校のクラブやアマチュアのサークルによるものが多くあります。

村井 葵さんの思い出

米本隆夫

早稲田は1965年、エベレスト山塊のローツェの衛星峰ローツェ・シャル(8383m)に挑みました。当時は大学山岳部単独での初の8000m峰挑戦でした。この遠征は成川隆顕隊員(元JAC常務理事)の滑落事故などで登頂できませんでしたが、村井さんは62年のペルーアンデスに続いてこの遠征に参加し、成川さんの救出にあたって献身的な役割を果たしました。4年後、その当時の記録をまとめて『幻想のヒマラヤ』を上梓しました。事故のあと極度の過労により高所で意識不明になった村井さんが、約一カ月後に意識を取り戻すまでの間に見た夢まぼろしの世界が強く印象に残っています。この時の経験は結果としては、氏の人生観を根本から変えることになりました。

「物質的なものには興味が持てず、スピリチュアルな根源への旅を希求するようになっていった。いのちの根源を見通すためには、見えないものを感知する心の目を開かなければいけない。いのちは闇の中に瞬く光そのものだ」(山で仰ぐ星々の彼方に：岳人さろん「岳人」537号 p86 1995.3 より抜粋)

『幻想のヒマラヤ』には、自己犠牲、友情、メンバーシップといった人類普遍の価値が極度に高められた形で表現されています。村井さんの発病は、極度に危険な環境下でおきた特異な経験ですが、そうした価値ある行為を実践した中での犠牲ではなかったか、と思うのです。いじめや、虐待などの極端な事件があとをたたない現在の社会のもつ病巣をみるにつけ、共に生きることの歓びや、自己犠牲の実際を伝える上で、この書のもつ価値は普遍です。

東京に住んでいた1997年7月から4年間は会報「山」の編集人をつとめました。山岳部の先輩、後輩としてだけでなく、編集や印刷の仕事を通じていろいろ教えていただきました。故郷の大阪に帰ってからは、関西支部にも顔をだし、肺気腫とそれこそ真正面から闘ったと思います。

「死ぬことは全く気になりません。ローツェの1か月は自分にとって一瞬であり、意識を失くした死の状態は宇宙にとけこめることと悟り、ここ2・3年で体験した3回の集中治療室でのできごとが悟りを深くしてくれました」(2014年2月の筆者への便りから)

この7月、再び入院することとなりました。本人はもちろん生還する強い気持ちを持ち、呼吸困難と闘いながら肺の塞栓手術をまったようですが、間に合いませんでした。

2014年7月5日、故人が誇りをもって、自分を語る時の唯一の肩書とした「日本山岳会会員 村井 葵」は、最愛の奥さまや子供たちに看取られて、悠久の宇宙へ飛び立ちました。

【村井葵氏略歴】

1936年生まれ。早大山岳部OB。1973～1990年関西支部委員。1962年ペルーアンデスのアルパマヨなどに登頂。1965年ローツェ・シャル登山隊に参加。この時、高山病により長期間、意識不明になる。下山後その解明に努め、高所における自己管理法を研究する。

著作に冬樹社刊『幻想のヒマラヤ：ローツェ・シャル登山の記録』(1969)、日本文芸社刊『登山技術と用具(登山ハンドブックシリーズ)』(1970)、同『写真で見る岩登り入門』(1975)、同『登山用具入門』(1979)、岳書房刊『高峰への挑戦：高所における自己管理技術』(1979)がある。

第25回 誕生127年
藤木 祭



日 時 平成26年 9月28日(日) 午後1時から
場 所 芦屋・高座の滝前(雨天決行)
主 催 日本山岳会関西支部 兵庫県山岳連盟
大阪府山岳連盟
後 援 芦屋市 近畿地区山岳連盟

+++++

藤木祭記念ハイキング

集 合 平成26年 9月28日(日)午前9時

場 所 阪急岡本駅北側・桜守公園

コース 桜守公園…岡本八幡神社…保久良神社…金鳥山…はぶ谷分岐…パノラマ道…横池…風吹岩…高座の滝

担 当 大阪府山岳連盟、兵庫県山岳連盟

Room日録 2014年

4月3日(木) 郵便受け取り	6日(火) 支部報編集委員会	山行委員会
5日(土) 郵便受け取り	80周年式典打ち合わせ	21日(土) 80年史編集会議
15日(火) 本山寺山森林づくりの 会総会	7日(水) 図書整理	23日(月) 郵便受け取り
16日(水) 評議員会	20日(火) 郵便受け取り	25日(水) 総務委員会
21日(月) 郵便受け取り	25日(日) 郵便受け取り	7月9日(水) 水曜会
23日(水) 総会準備	28日(水) 支部委員会	16日(水) 第2回支部委員会
28日(月) 図書整理	31日(土) 80年史編集会議	24日(木) 80周年記念海外登山PJ
スケッチ同好会打ち合 わせ	6月3日(火) 図書整理	28日(月) 80年史 作業 水曜会準備
5月3日(土) 郵便受け取り	4日(水) 80周年記念海外登山PJ	29日(火) 80年史 作業
	11日(水) 支部報発送 水曜会	30日(水) 80年史 作業
	18日(水) 近畿分水嶺編集会議	31日(木) 80年史 作業

受贈一覧

(2014.5.1～7.31受理分)

『岳人冠松次郎と学芸官中田俊造：戦前期における文部省山岳映画』 東京：北区飛鳥山博物館，2014.3

登山月報 第541,542,543,544号 日本山岳協会

山岳大阪 No.201 大阪府山岳連盟

兵庫山岳 第562,563,564,565号 兵庫県山岳連盟

日本山岳会東京多摩支部年次報告書

2013 町田：日本山岳会東京多摩支部

2012年日本・パキスタン国交樹立60周年記念日本山岳会福島支部創立65周年

記念日本パキスタン合同カルコルム登

山隊報告書 福島：日本山岳会福島支部，2014.6

宮城県の山地及び丘陵における放射線量測定結果報告書 仙台：日本山岳会宮城支部，2014.6

日本山岳会支部報

・[青森支部]会報 第14号
・宮城山岳通信 第3号

・秋田山岳 No.93

・埼玉支部報 第12号

・千葉支部だより 第27号

・[東京]たま通信 第16,17号

・富山支部会報 No.96

・甲斐山岳 第6号

・不盡 第75号 静岡支部

・東海支部報 No.138

・[京都・滋賀]支部だよりNo.115

・JAC Hiroshima 第52号

・東九州支部報 第65,66号

・JAC北九だより No.69

・宮崎支部報 第49号



スケッチ同好会例会のご案内

第2回

日時 平成26年9月22日(月)10:30～15:00
小雨決行
集合 近鉄奈良駅 行基像前 9:30
行先 奈良公園(行基像より公園へ徒歩約40分)
持ち物 水彩を主とする画材一式、カメラ、弁当、飲み物、日よけ帽など熱中症対策グッズ、折り畳み椅子
申込締切 平成26年9月16日(火)
申込先 中野峯子

e-mail : minekoainekuraine@ares.eonet.ne.jp
TEL : 072-964-1936 携帯090-5652-7171

第3回

日時 平成26年11月17日(月)10:30～15:00
小雨決行(屋根のある休憩所を利用します)
集合 近鉄橿原神宮前駅中央口 10:10
行先 橿原神宮(徒歩約20分)
持ち物 水彩を主とする画材一式、カメラ、弁当、飲み物、傘など
申込締切 平成26年11月10日(月)
申込先 岩崎しのぶ

e-mail : sinobunr4822@nike.eonet.ne.jp

TEL : 0743-74-2259

2014年10月～12月 支部山行計画

※申込み先は後のリストを参照してください【いずれも締切厳守】

14-20 4000山グランプリ

日永岳1216m・舟伏山1040m

日 時：10月4日(土)・5日(日)

コース：樽見駅—日永岳—舟伏山—樽見駅

地 図：2.5万分の1「下大須」「谷合」

備 考：詳しくはメールで問い合わせてください

難易度の高い山 テント山行

80周年記念海外登山のトレーニング山行

一般参加可 山岳保険加入が必須

申込み：9月20日迄 重廣恒夫

山行でコースを変更する場合があります

歩行距離 約10km 歩行時間約4時間30分

(休憩時間含まず)

申込み：11月13日迄 久保和恵

14-21 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる16

葛城山系・屯鶴坊から二上山

日 時：10月23日(木)

コース：関屋駅(近鉄大阪線)—屯鶴坊—穴虫峠—二上山
山雌岳—雄岳—二上神社口分岐—二上山駅
(近鉄南大阪線)

地 図：2.5万分の1「大和高田」

昭文社：金剛・葛城

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行でコースを変更する場合があります
歩行距離 約7km 歩行時間 約4時間(休憩
時間含まず)

申込み：10月16日迄 久保和恵

14-22 関西支部県境縦走22

日 時：10月25日(土)・26日(日)

コース：9月までの進捗状況によりコースが決まりま
す HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：10月12日迄 山内幸子

14-23 4000山グランプリ 四国の山

明神山442m・太竜寺山618m

日 時：11月8日(土)・9日(日)

備 考：四国支部との合同山行

申込み：10月26日迄 家段勝好または重廣恒夫

14-24 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる17

生駒山系・交野山から三国山

日 時：11月20日(木)

コース：JR河内磐船駅—かいがけの道—傍示の里—
交野山—白旗池—国見山—JR津田駅

地 図：2.5万分の1「枚方」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く

14-25 関西支部県境縦走23

日 時：11月22日(土)・23日(日)

コース：10月までの進捗状況によりコースが決まりま
す HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：11月7日迄 山内幸子

14-26 4000山グランプリ

経ヶ岳764.8m・剣ヶ岳799.4m・吉野ヶ岳547.0m

日 時：11月29日(土)・30日(日)

コース：勝山駅—経ヶ岳—剣ヶ岳—吉野ヶ岳—福井駅

地 図：2.5万分の1「山王」「永平寺」

備 考：詳しくはメールで問い合わせてください

難易度の高い山 テント山行

80周年記念海外登山のトレーニング山行

一般参加可 山岳保険加入が必須

申込み：11月20日迄 重廣恒夫

14-27 ゆるやか山行【里山探訪】歴史と文化を訪ねる18

(忘年山行)湖北・佐和山城跡から彦根散策

日 時：12月18日(木)

コース：JR彦根駅—龍潭寺—大洞弁財天—本丸跡—
国道8号線登山口—JR彦根駅

地 図：2.5万分の1「彦根」

備 考：里山を歴史や文化を訪ねながらのんびり歩く
山行でコースを変更する場合があります歩行距離 約6km 歩行時間約3時間30分
(休憩時間含まず)

申込み：12月11日迄 久保和恵

14-28 関西支部県境縦走24

日 時：12月20日(土)・21日(日)

コース：11月までの進捗状況によりコースが決まりま
す HP等で確認してください

備 考：詳しくは申込者に連絡します

申込み：12月7日迄 山内幸子

申込み先一覧

家段勝好 e-mail : k-kadan@gb4.so-net.ne.jp
 久保和恵 e-mail : unclatorys05-kazu@nifty.com
 FAX : 079-565-0530
 黒田記代 e-mail : kuroda@makino.kmu.ac.jp
 重廣恒夫 e-mail : tsuneo.shigehiro@asics.com
 山内幸子 e-mail : sacchyama2f0710@yk2.so-net.ne.jp

ステップアップ登山教室 一般対象 募集中

2ndステップ 3rdステップ

初級 『地図とコンパスを持って六甲山を歩く』

10月7日(火) 高尾山739m
 11月4日(火) 六甲最高峰931.3m
 12月11日(木) 冬の安全・快適登山術(座学)

中級 『沢歩き』

9月25日(木) 西滝ヶ谷～六甲最高峰
 10月23日(木) 大月地獄谷～五助山
 11月20日(木) 五助谷～西お多福山
 12月11日(木) 冬の安全・快適登山術(座学)

上級 『岩登り・沢の初歩・雪山の初歩』

9月18日(木) 京都北山・毘沙門谷
 10月16日(木) 高野山・弁天谷
 11月13日(木) 武田尾・西ノ谷
 12月11日(木) 冬の安全・快適登山術・積雪期
 登山の基礎知識(座学)

「著者と語る会」のご案内

日時 平成25年11月15日(土)
 13時45分～15時30分
 場所 大阪府立中央図書館 大会議室(2階)
 〒577-0011 東大阪市荒本北1-2-1
 Tel 06-6745-0170
 交通 近鉄けいはんな線
 (地下鉄中央線乗り入れ)
 荒本駅下車(1号出口)北西へ約400m
 講演 沢登りの地平線—日本の谷から世界の谷へ
 講師 成瀬陽一(なるせ よういち)氏
 1962年 愛知県豊田市生まれ
 海綿充血隊、海外溯行同人など会員
 東京新聞出版局刊『俺は沢やだ!』(2009)。
 「岳人」763-774号(2011)に「大滝巡攀」、
 799-806号に「沢登りの地平線」を各連載。

申込み・問合せ

〒634-0812 橿原市今井町 2-1-24-704

中谷 絹子

Tel 0744-29-2760 / 090-1220-6250

会場の都合上、ハガキまたは電話にて11月10日
 までにお申し込みください。

2014年10月～12月 自然保護行事

1 東お多福山ススキ草原復元活動

・10月8日(水) 秋の植生調査と管理作業
 予備日9日(木)
 ・11月26日(水) 全面ササ刈作業 予備日27日(木)
 ※集合：阪急芦屋川駅 8時50分(土樋割峠 9時30分)

2 第18回森の勉強会 東海支部自然保護委員会主管

11月8日(土)～9日(日) 愛知県・猿投の森
 「山」の案内参照 詳細は参加希望者に別途連絡
 締切：9月30日(先着順のケースあり)

3 日本山岳会関西支部本山寺山の森 (本山寺山森林づくりの会活動)

・10月2日(木) 44林班 森林整備、枯死木除伐
 ・10月19日(日) 44林班 森林整備、枯死木除伐
 ・11月6日(木) 45林班ろ3 間伐、森林整備
 ・11月16日(日) 44林班ろ 選木、森林整備
 ・12月4日(木) 45林班ろ4 つるきり、森林整備

・12月21日(日) 45林班ろ4 つるきり、森林整備
 ※集合：JR高槻駅北口アルプラザ前 8時50分
 (参拝者駐車場 9時30分)

4 自然保護全国集会

11月22日(土) 広島工業大学 広島校舎
 支部報告、講演「里山資本主義」(NHK広島・井上
 恭介氏)、討議、ワークショップ 懇親会 会費
 12,000円
 締切：10月10日
 関連行事：23日(日)広島山岳平和祭、24日(月)弥山フ
 ィールドスタディ

問い合わせ・申込み先

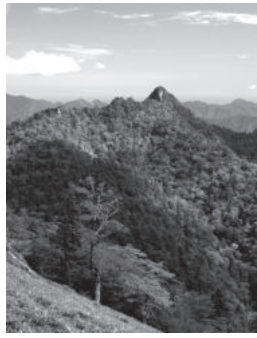
斧田一陽 TEL&FAX 072-633-6556 / 090-4037-4542
 ※締め切り：森の勉強会、自然保護全国集会を除き、
 開催日の一週間前まで

ナカニシヤ出版

606-8161 京都市左京区一乗寺木ノ本町15〔税抜〕
TEL 075-723-0111 / FAX 075-723-0095

ロープレスキュー技術
堤 信夫 著
2000円
登山家や救助・防災関係者必携。現場で使えるロープテクニクの手順・方法を、図解イラストでわかりやすく解説。

一等三角点全国ガイド
続一等三角点全国ガイド
一笠二肉點研究會 編著
（正）2000円・（続）1800円
全国計千点余の全一等三角点（正編は五百m以上、続編は五百m未満）について、標高・選点・経緯度等と登山道を案内。高山以外にも、無名峰や平地、民家の庭先まで多彩。



大日岳の秋

▼名所旧跡や社寺など歴史・文化にもふれ、また名花や樹林・滝などの見所や展望も紹介。
▼マイカーを使う方や、公共交通機関が利用できないコースのために最新の道路情報も。

奈良名山案内

大和・奈良の名山をオールカラーでガイド！

- I 生駒・金剛山系 9コース
 - II 奈良中部の山々 12コース
 - III 室生・俱利伽藍山系 8コース
 - IV 台高山系 19コース
 - V 大峰山系 36コース
 - VI 奥高野・果無山系 8コース
- 計172山・92コースを案内！

エスカルゴ山の会 編著
A5判 208頁 2000円

▼大和三山から、吉野・高野山の弘法大師の道、役行者ゆかりの大峰奥駈道や小辺路にある世界遺産の山々など。

▼登山口の最寄駅から山頂を経て帰途の最寄駅まで、写真・地図をそえて、コース全体を親身にアドバイス。

台北市内に3連泊。滞在型の日程でゆったりハイキング

台北滞在ハイキング 九份、草嶺古道、陽明山 4日間

出発日～帰着日	旅行代金(大阪発着)
残7 11/ 4(火)～11/ 7(金)	¥158,000
残5 11/18(火)～11/21(金)	¥158,000

ススキの穂がたなびく11月はハイキングに最適な季節です。台北市内の快適なホテルに3連泊し、ハイキングはもとより、観光や食も楽しむ、コンパクトな日程ながら盛りだくさんのツアーです。



▲ススキの美しい草嶺古道

ニュージーランド屈指の大展望が得られるルートバーン・トラックへ

【大阪発着】ルートバーン・トラックと クィーンズタウン 7日間

出発日～帰着日	旅行代金(大阪発着)
残4 11/3(月)～11/9(日)	¥484,000

期間限定で運行される閑空発着のニュージーランド航空を利用します。美しい山岳風景や深い森、山上の湖、大迫力の滝など、変化に富んだ自然が楽しめるルートバーン・トラックを歩きます。閑空より大阪支店・竹森壮孝が同行。



▲大パノラマが広がる稜線をたどる

—◇お知らせ◇—

「ロングトレイル倶楽部」のご案内

世界を代表する“ロングトレイル”の名にふさわしい、各コースをご紹介するロングトレイル倶楽部。専用カタログをご用意しておりますので、お気軽にご請求ください。

◇—アルパイン・メイト・ポイントのご案内—◇

- 当社海外ツアーにご参加いただくと、旅行代金の1%にあたるポイントが帰国翌日に自動加算されます。
- 貯まったポイントは次回の割引やアウトドアグッズへ交換可能。
- 入会金や年会費、面倒な手続きなどは一切不要です。

「アルパイン・メイト・ポイント」の詳細はお問合せください。



観光庁長官登録旅行業第490号(第1種)/一般社団法人日本旅行業協会 正会員 ●ボンド保証会員
アルパインツアーサービス株式会社

大阪 06-6444-3033
〒550-0003
大阪市西区京町堀1-4-3(TOF肥後橋ビル2階)

〈編集後記〉

☆山岳雑誌『岳人』が、東京新聞出版部の手を離れ、在阪企業のモンベルから出版されることになった。編集長を務める辰野代表は大阪で編集することにこだわり、編集部にお誘いがあった。よくも悪くも、これまでの路線では商業出版としては成り立たないことが露呈してしまった今後、『岳人』はどこに向かえばいいのか、しばらくは悩みが続くことになる。(K)

発行日 2014(平成26)年9月10日
発行所 〒530-0015 大阪市北区中崎西1-4-22
梅田東ビル3階 304号室
公益社団法人日本山岳会関西支部
e-mail: kansai.jac@canvas.ocn.ne.jp
郵便振替口座 00930-6-55950
発行者 重廣恒夫
編集 加藤芳樹 野口恒雄 水谷 透
制作 株式会社 双陽社
大阪市北区堂島2-2-28